
災害対応マネジメントセンター

平成28年度 事業報告

2017.3月

石井正 藤田基生
阿部喜子 今井浩之

I. センター概要

1. 沿革

- ・平成27年1月、東日本大震災時に、他組織・期機関と連携した活動経験を有する東北大学病院が、官学産民医が密接に連携した災害対応体制整備および人材育成を行うことを目的として、総合地域医療教育支援部内に設置。
- ・宮城県の採択を受け、補助金（新基金）を財源としていたが、**平成27年度で終了**

2. 事業

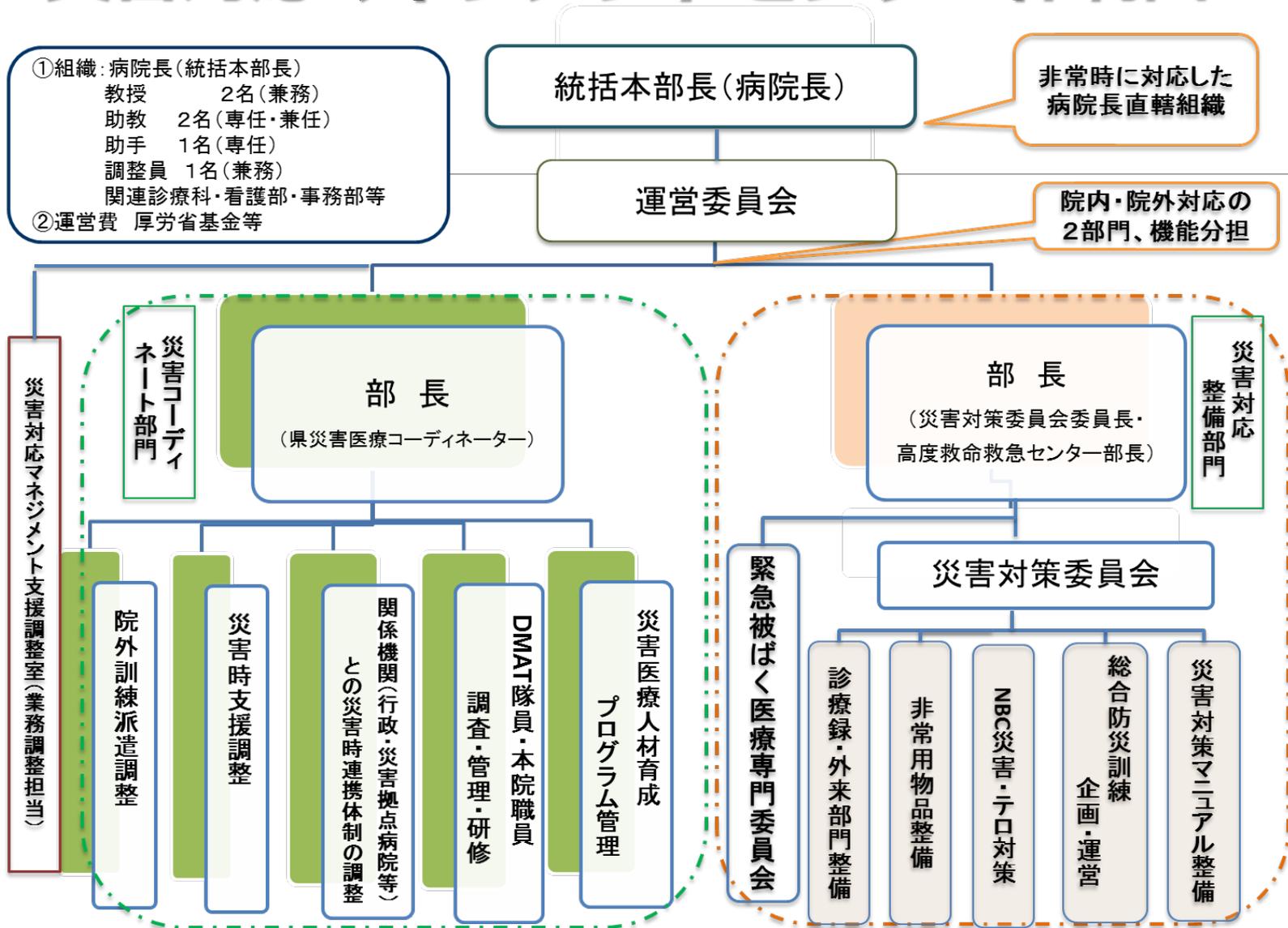
2-1. 対外活動

- ・国、地方自治体、医療機関等が推進する各種災害対策活動に関して、監修、運営参画、指導、助言を行う。

2-2. 院内での活動

- ・災害対策委員会・緊急被ばく医療専門委員会、BCP委員会を通して、災害対策マニュアルの策定や総合防災訓練・緊急被ばく医療体制の整備、訓練の運営・実施、BCP策定について主導的役割を担う。

災害対応マネジメントセンター体制図



災害対応マネジメントセンターが 院内外で関わっている組織

院内・学内

災害対策委員会
緊急被ばく医療専門委員会
BCP委員会
医学教育推進センター
総合地域医療研修センター
・スキルスラボ
院内各部署
東北大学災害科学研究所

院外

宮城県医療整備課
宮城県消防課
宮城県総務部危機対策課
宮城県原子力安全対策課
各都道府県医療整備課
仙台市健康福祉局
各災害拠点病院
宮城県DMAT連絡協議会
厚生労働省DMAT事務局
各保健所
仙台市消防局・各消防本部
宮城県消防学校
岩手医科大学病院
福島県立医科大学病院
宮城県警
自衛隊
仙台空港、NEXCO
ACT研、UDME・・・

平成28年度の主要な活動

活動場所	活動の種類	月日	活動内容	依頼元	財源	金額		参加者人数 受講生+講師 関係機関含む
						金額	持ち出し	
院外	研修会	2016/10/26-27	国立大学病院災害医療技能管理者(UDME)研修会	国立大学病院 病院長会議	病院長会議	¥1,805,160	なし	約75
		2016/7/28	UDME研修会会議打合せ	国立大学病院 病院長会議	当院(災害対策委員会経費)	¥100,800		
		2016/10/29	宮城県災害医療技能維持研修会	宮城県	宮城県	¥1,500,000	なし	約50
		2017/2/11	宮城県医療救護活動従事者研修会	宮城県	宮城県	¥1,350,000	なし	約60
	実動訓練	2016/8/6	大規模地震時医療活動訓練	内閣府⇒宮城県	当院(災害対策委員会経費)	¥248,080	—	DMAT1800+他機関多数
			上記訓練のための調整・会議・報告会(内閣府・静岡県)	マネジメントセンター	マネジメントセンター	¥400,000	—	—
		2016/9/1	宮城県防災の日9/1訓練 ⇒8/31岩手県豪雨災害で中止	宮城県				中止
		2016/10/1-2	DMAT東北ブロック参集訓練in山形	山形県	当院(災害対策委員会経費)	¥44,100	—	約300人
	机上訓練	2016/6/10	平成28年度宮城県津波の日総合防災訓練	宮城県	—	—	—	□ 20 □ □ □ □ □ □ □ □
		2016/10/20	航空機事故対処部分(図上)訓練	仙台空港	—	—	—	約100人
		2016/11/8-9	みちのくALERT準備訓練	自衛隊	—	—	—	□ 30 □ + □ □ □ □ □ □ □ □
	実動	2016/4/16-19	熊本大地震DMAT派遣	国	熊本県	¥336,300	1,100	当院5人
		2016/4/17-21	熊本地震現地支援	マネジメントセンター	当院(災害対策委員会経費)	¥101,090	—	計107人
		2016/4/27-5/3	JADM災害コーディネートサポートチーム派遣第1次隊	JADM(学会)	熊本県	¥120,000	—	
		2017/4/15~21	JADM災害コーディネートサポートチーム派遣第4次隊	JADM(学会)	熊本県	¥120,000	—	
2016/5/18-20		G7仙台財務大臣中央銀行総裁会議	仙台市	仙台市	—	—	34人	
院内	院内訓練	2016/9/23	東北大学病院総合防災訓練	当院	当院(災害対策委員会経費)	¥1,584,586		約300人
		2016/11/14	緊急被災医療受け入れ対応訓練	当院	当院(災害対策委員会経費)	¥217,417		約80人
その他	研修会受講 訓練見学	2016/6/19-23	日本DMAT隊員養成研修会	国⇒宮城県	当院(災害対策委員会経費)	¥73,940	—	
		2016/9/21-24	日本DMAT隊員養成研修会	国⇒宮城県	当院(災害対策委員会経費)	¥82,600	—	
		2016/12/23-25	NBC災害・テロ対策研修	国⇒宮城県	当院(災害対策委員会経費)	¥189,480	—	
		2016/6/6-7	都道府県担当者研修会(2日間×1回)	マネジメントセンター	マネジメントセンター	¥35,000	—	
		2016/12/23-24	DMATロジスティック研修会	国⇒宮城県	当院(災害対策委員会経費)	¥35,000	—	
		2017/2/12-15	日本集団災害医学会	集団災害医学会	当院(災害対策委員会経費)	¥93,000	—	
		2017/3/25-26	DMATロジスティック研修会(アドバンス)	国⇒宮城県	当院(災害対策委員会経費)	¥45,000	—	
DMAT 資器材関連	DMAT 資器材関連		平成28年度分		当院(災害対策委員会経費)	¥677,099	—	
					合計	¥9,158,652		

Ⅱ. 平成28年度 事業実績



1. 主な対外活動

① 熊本地震DMAT派遣活動

活動期間：平成28年4月16日(土)～4月19日(火)

所属本部：竹田市医師会病院、阿蘇医療センター

メンバー：〈医師〉藤田基生、佐々木宏之
〈看護師〉阿部喜子、齋藤真、星知恵実、
〈業務調整員〉佐藤大

活動概要

4/16 移動

4/17 南阿蘇村 避難所スクリーニング（3カ所）

4/18 南阿蘇村久木野庁舎本部活動、特別養護老人ホーム搬送支援

4/19 南阿蘇村白水庁舎災害医療コーディネート会議、引き継ぎ、移動
活動振り返り

- ・ 通信手段の確保、活動拠点本部下での活動・報告の重要性
- ・ 超急性期から急性期への移行時期、地域の保健福祉との連携の重要性
- ・ スクリーニングの重要性、引継ぎの重要性



Ⅱ. 平成28年度 事業実績

1. 主な対外活動

② 日本集団災害医学会

災害コーディネータサポートチーム派遣

日本集団災害医学会 (Japan Association for Disaster Medicine:以下JADM)

- ・阪神淡路大震災、東京地下鉄サリン事件のあった1995年に発足
- ・災害医学・災害医療の発展に寄与するために活動を実施
- ・今回の災害で初めて派遣活動を運用

【派遣期間】(第1次隊～第5次隊) 平成28年4月27日～5月27日

【派遣資格者・派遣人数】

集団災害医学会会員(必須)、災害医療コーディネータ研修を修了した者、災害医療専門機関や団体に所属する者、DMAT隊員、国際緊急援助隊医療チーム(JDR)登録者・・・計107名



【第1次隊】

派遣期間：平成28年4月27日～5月3日

活動場所：益城町健康福祉センターハピネス

活動概要：上益城圏域災害医療調整本部内のサポート
——医療救護班の配置、医療救護班管理業務

地域状況把握と上位本部（熊本県庁）への報告

DVT予防・熱中症予防啓蒙活動、衛生環境の確保、栄養評価、感染拡大防止、
避難所の住環境の向上、医療機関の機能評価・支援方針の決定



【第4次隊】

派遣期間：平成28年5月15日～5月21日

活動場所：避難所対策チーム（益城町役場内）

活動概要：通院中心の医療体制への移行、避難所再編：福祉避難所設置、在宅医療の導入
一般避難所での要配慮者選出、福祉避難所入所対象者の掘り起こし

【課題とまとめ】

- ・本部の規模や形態、組織や職種は様々であり、各々のバックグラウンドを理解した上で、臨機応変に協同して本部機能を果たす必要がある
- ・亜急性期にはニーズの主体は医療から公衆衛生、保健・福祉に移行し、医療者だけでなく、保健・福祉関係者、ボランティア関係者など多くの支援団体が参画する。関係者の情報共有・調整窓口の設置、平時からのお互いの活動の理解と連携体制の構築が重要である

Ⅱ. 平成28年度 事業実績



1. 主な対外活動

③ G7財務大臣・中央銀行総裁会議

開催日：2016年5月19～21日

実施主体：仙台市、外務省

経緯：仙台市からの会期中の医療体制について依頼あり

参加人数：多機関

活動概要：仙台市と協働し消防、警察、各関係医療機関とCBRNEテロ対策も視野に入れたG7財務大臣・中央銀行総裁会議における仙台市内の医療体制の整備、会期中の医療班待機を実施

当院からは、DMAT隊員・事務職員を含め延べ34人が院内待機

活動内容：【院外】

仙台市危機管理局、健康福祉局と連携し、仙台市内の医療機関との連絡調整会議開催、病院の専門性・収容人数を考慮した診療体制計画を立案、期間中の消防と調整・実働訓練、会期中院内待機
死傷者発生時のDMORT、DPATとの連絡調整

【院内】

災害対策委員会 G 7 仙台財務大臣・中央銀行総裁会議対応WG、院内体制整備（ゲートコントロール、養生体制整備、院内連絡フロー作成、感染管理室・放射線部・救命救急センターとの水平連携）、

成果：実動を見据えた準備を遂行し医療体制整備を実施できた

Ⅱ. 平成28年度 事業実績

1. 主な対外活動

④ 平成28年度「みやぎ県民防災の日」総合防災訓練

開催日：2016年6月10日

実施主体：宮城県

訓練場所：宮城県庁2階講堂、5階コントローラー室

訓練参加機関：保健福祉部、各保健福祉事務所、仙台市、6医療機関、
EMIS登録医療機関、消防、自衛隊、緊急消防隊、等

訓練参加者：訓練全体200名、医療調整本部訓練参加者：30名

被害想定：三陸沖を震源とするM9.0の地震が発生

局地的大雨により、内陸部で土砂災害、孤立する集落等が発生

訓練内容：大規模災害時医療活動マニュアル等に基づき訓練を実施。

①災害医療本部立ち上げ②保健福祉事務所との情報伝達訓練等

活動内容：訓練想定に基づく時系列シナリオを作成、コントローラーとしてEMISに
医療機関情報を入力、様々な状況付与を行い、医療調整本部、
DMAT調整本部の活動の評価、フィードバックも併せて行った

成果：リアリティのある状況付与を行い、実践に近い医療調整本部活動を実施できた

Ⅱ. 平成28年度 事業実績



1. 主な対外活動

⑤ 平成28年度大規模地震時医療活動訓練

【訓練概要】

日時：平成28年8月6日（土）

訓練想定：南海トラフ地震：山梨、静岡、愛知、三重が被災

訓練参加：参加DMAT約1,800名（全参加389チーム、コントローラー約360名）

支援対象病院：81施設

広域医療搬送実施機：5機（自衛隊固定翼機3、自衛隊回転翼機1、海上保安庁回転翼機1）

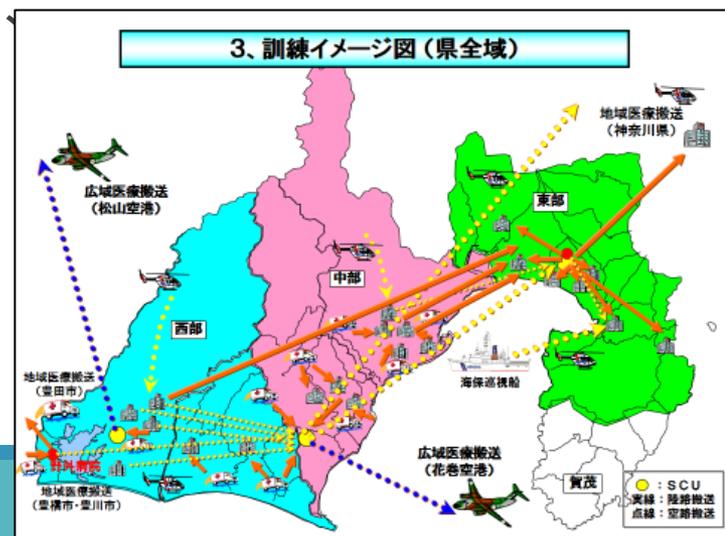
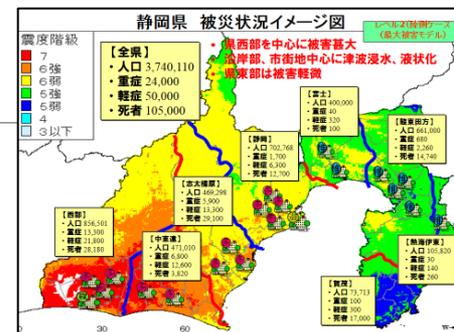
ドクターヘリ：12機

当院参加者：DMAT事務局（運営）1名、コントローラー2名、

プレイヤー：5名

【活動内容】

DMAT事務局の静岡県担当者として静岡県の訓練の企画運営と訓練当日のコントローラーとして活動。机上シミュレーションより課題を抽出、被害の大きい地域の災害医療対応（災害拠点病院の拠点化、地域医療搬送、広域医療搬送など）を計画し、実践。ロジスティックの訓練も実施。



Ⅱ. 平成28年度 事業実績

1. 主な対外活動

⑥ 平成28年度 宮城県9.1訓練



開催日時:平成28年9月1日(木)

開催場所:①宮城県消防学校

②霞目飛行場、仙台市立病院、護衛艦いずも

経緯:毎年防災の日に宮城県主催の総合防災訓練を主催

目的:医療、消防、自衛隊、県庁が連携し、協同した活動を行う

参加機関:県内DMAT指定病院:6病院、県外DMAT(東北ブロック)各県より1チーム

仙台市消防局、自衛隊(陸上・海上)、海上保安庁、リーベン、
宮城県庁(医療整備課、危機管理対策課)

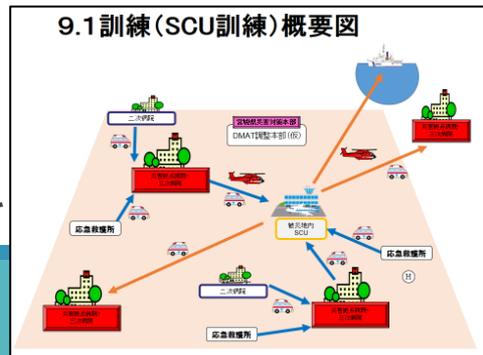
参加者:医療関係者・仙台市消防局職員・自衛隊員、宮城県庁含む 約150名

活動概要:関係各機関と訓練内容の企画立案、フライトプランの調整を実施。

DMATが救護所やSCUを展開、消防ヘリ・自衛隊ヘリにて地域医療搬送を実施し、
SCU受け入れや護衛艦いずもへの搬送を行う。

2016/8/31の岩手県豪雨災害にて訓練は中止。

成果:各機関の災害実派遣のため、訓練は中止となったが、
消防、陸海自衛隊、海保等、多くの関係機関と事前の調整を
進めることができ、実践を視野にいれた調整を実施できた



Ⅱ. 平成28年度 事業実績

1. 主な対外活動

⑦平成28年東北ブロックDMAT参集訓練

開催日: 2016年10月1日実働訓練
2016年10月2日研修会

主催: 山形県

参加医療機関: 東北ブロック7県(青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、新潟県)のDMAT

協力機関: 医療機関、県警警察本部、消防本部、陸上自衛隊、山形空港ビル

訓練想定: 平成28年10月1日午前0時頃、山形盆地断層帯を震源とするM7.8の地震が発生

訓練項目: ①山形県災害対策本部及びDMAT本部設置運営

②DMAT参集・派遣 ③患者搬送(SCU含む)

④病院災害対策訓練及びDMAT病院支援

⑤災害現場における救出救助 ⑥病院の災害対策に係る現状分析支援

⑦広域災害救急医療情報システム(EMIS)入力

活動概要: 山形空港SCUコントローラーとして自衛隊機との機内換装、機内DMAT搭乗の調整、傷病者搭乗の調整、資器材調整、SCU内の傷病者役の想定付与、ムラージュ等を実施した。当院DMAT隊もSCUの診療チームとして活動した。

成果: 山形空港に配備されたSCU用の機材を使用して、SCUを展開できた。自衛隊機の使用のため、機内DMATや傷病者搭乗に向けた実践的な調整を行うことが出来た。



Ⅱ. 平成28年度 事業実績

1. 主な対外活動

⑧ 仙台空港航空機事故対応訓練



開催日時:平成28年10月20日(木)14:00~17:20

開催場所:仙台空港ターミナルビル内3階有料待合室

経緯:民営化に伴い、航空機事故対応の整備を行う目的で机上訓練を実施

目的:仙台空港における航空機事故を含む、局地災害時対応マニュアルの検証

参加機関:県内災害拠点病院ほか:12病院

名取市消防本部、岩沼市消防本部、仙台市消防局

仙台市医師会、岩沼市医師会

参加者:ファシリテーター・プレイヤー・仙台空港職員・見学者含む 約100名

活動概要:机上シミュレーション(エマルゴトレーニング)の企画・運営

当日のファシリテーター

成果:各診療エリア、本部との連携の中で、課題が抽出され、

局地災害マニュアルの検証に役立った



搬送ボード
人員輸送平台
稼働中(2台)

搬送機種	到着時間	搬送患者	出発時間	目的地	目的地到着時間	現場へ戻り時間
救急車・ヘリ			15:44	大学病院	16:14	16:54
			15:55	仙台医療センター	16:15	16:45
				大学病院		



Ⅱ. 平成28年度 事業実績

1. 主な対外活動

⑨ 国立大学附属病院大学病院 災害管理技能者 (UDME) 養成研修会



開催日 : 2016年10月26～27日

実施主体 : 国立附属病院長会議常置委員会主催
東北大学病院主催(幹事校)

参加人数 : 受講生40名、講師 : 35名

※病院長、看護部長などの病院幹部、多数受講

活動内容 : 各大学病院で災害対策を推進できる人材育成のための
講義・シミュレーションの実施

※東北大学病院は講義を5つ担当(全14講義中)

詳細内容 : 東北大学病院が担当する講義

1. 東日本大震災における病院対応(講義)
2. 被災地内大学病院の対応(シミュレーション)
3. 東日本大震災での経験(受入側)(講義)
4. 里見総長講演
5. 職種別講義

成果 : 東日本大震災を体験した唯一の被災地大学病院開催の有意義な研修会となった

Ⅱ. 平成28年度 事業実績

1. 主な対外活動

⑩ 宮城県災害医療技能維持研修会



開催日 : 2016年10月29日

主催 : 宮城県

実施主体 : 東北大学病院

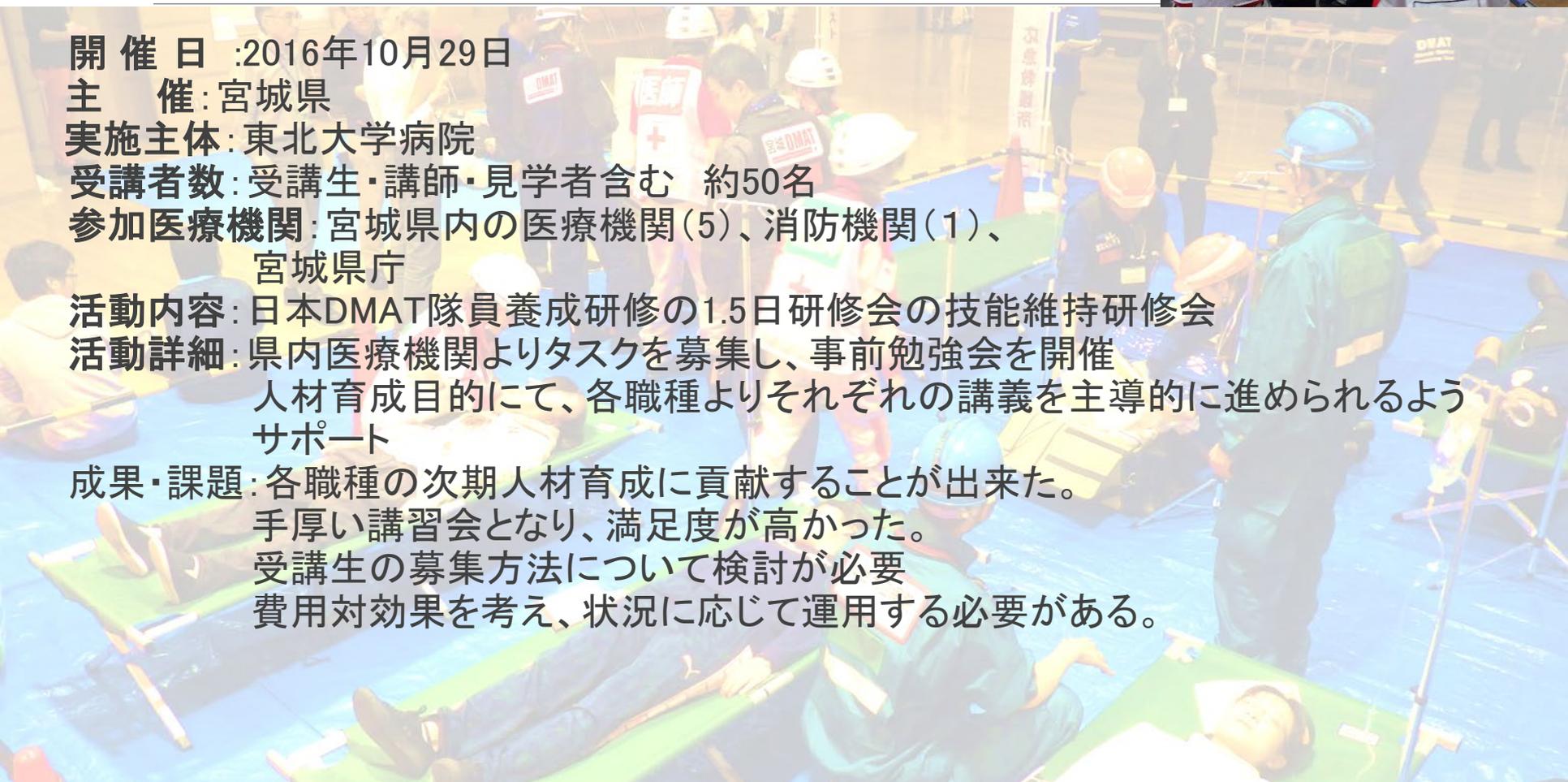
受講者数 : 受講生・講師・見学者含む 約50名

参加医療機関 : 宮城県内の医療機関(5)、消防機関(1)、
宮城県庁

活動内容 : 日本DMAT隊員養成研修の1.5日研修会の技能維持研修会

活動詳細 : 県内医療機関よりタスクを募集し、事前勉強会を開催
人材育成目的にて、各職種よりそれぞれの講義を主導的に進められるよう
サポート

成果・課題 : 各職種の次期人材育成に貢献することが出来た。
手厚い講習会となり、満足度が高かった。
受講生の募集方法について検討が必要
費用対効果を考え、状況に応じて運用する必要がある。



Ⅱ. 平成28年度 事業実績

1. 主な対外活動

⑪ みちのくALERT準備訓練

開催日 : 2016年11月8-9日

主催 : 自衛隊

参加医療機関 : 宮城県内の医療機関、消防、警察、宮城県庁、NEXCO、海上保安庁、KDDI、自衛隊など多数

参加人数 : 医療機関関係者30名、その他200名以上

訓練内容 : 2018年に実施されるみちのくALERT実動訓練の準備訓練として、自衛隊の情報把握システム「ICE」と想定付与用紙「MISLE」を用いた机上シミュレーション

活動詳細 : 事前に自衛隊と調整し、医療側のリアリティのある災害想定を作成。また、EMISの訓練モードを使用し運用した。宮城県内の医療機関の被害状況、全国のDMATの出動状況などをEMIS上に反映した。自衛隊と協議・連携しながら訓練を進行。

成果 : 自衛隊との連絡調整を行い、自衛隊の災害時対応について学ぶことができた。実践と同様、自衛隊と調整しながら訓練を実施できた。

課題 : 自衛隊の実動部隊と机上シミュレーションの進捗状況のズレ、コントローラの過負荷、プレイヤーの負荷が小さい



Ⅱ. 平成28年度 事業実績

1. 主な対外活動

⑬ 宮城県医療救護活動従事者研修会

開催日 : 2017年2月11日

主催 : 宮城県

実施主体 : 東北大学病院

受講者数 : 受講生・講師・見学者含む 約60名

参加医療機関 : 宮城県内の行政・保健所・医療機関・医師会・看護協会・薬局・消防等
19機関

活動内容 : 災害時における避難所のアセスメント方法について講義、
机上シミュレーション、データ入力・管理を通して学ぶ

活動詳細 : 避難所運営ゲーム、救護班調整演習、避難所アセスメント評価法、
避難所アセスメントツール『RASECC-GM[®]』を使用した入力訓練と
評価・分析を実施

成果 : 他機関、多職種の方々に避難所の運営、評価、アセスメントについて
学んでいただくことができた
受講生の評価も高く、次年度も継続して実施予定



Ⅱ. 平成28年度 事業実績

2. 主な院内活動

① 災害対策委員会

【WG活動】

① マニュアル・アクションカード改定WG:

2週間～1ヶ月/1回

平成27年度の総合防災訓練の振り返りをもとにマニュアル改定

9月暫定版リリースし、訓練実施

平成28年度の訓練をもとに、マニュアル改定中

② 総合防災訓練:

2週間～1ヶ月/1回開催(訓練3ヶ月前～)

マニュアル改定内容をもとに訓練を企画、マニュアル検証

③ 災害時情報収集WG:

2週間～1ヶ月/1回開催

1回/月のアシスト訓練、MCA/トランシーバー/PHS運用の検討

④ NBC・テロ対応WG

G7仙台財務大臣・中央銀行総裁会議に向けた院内外の対応

Ⅱ. 平成28年度 事業実績

2. 主な院内活動

② 総合防災訓練実施

開催日：2016年9月23日

訓練までの経過：6月机上シミュレーション実施、総合防災訓練WG4回
医事課勉強会1回、本部訓練1回

訓練場所：救命救急センター

訓練参加機関：大崎市民病院、仙台市消防局：救急隊(1)

訓練参加者：約400名(医療従事者、事務職員、警備員、運転監視員、
医療事務委託業者、医学部学生、消防・他医療機関職員等)

外部訓練評価者：石巻赤十字病院より4名

訓練概要：震度6強の地震が発生した際の医療機関の対応訓練

訓練内容：①災害対策本部立ち上げ・運用訓練

※本部各アクションカード検証

②多数傷病者受入訓練

③被害情報報告訓練



II. 平成28年度 事業実績

3. 主な院内活動

③ 緊急被ばく医療対応訓練

経緯: 福島で原発事故や傷病者発生時には
当院が受け入れる協定締結
今後**原子力災害拠点病院**に向けた
体制整備が必須

訓練までの経過: 昨年**緊急被ばく医療専門委員会**立ち上げ

手術部: 緊急被ばく医療対応講義4回、養生訓練2回

防護衣脱着訓練: 1回

救命センター: 講義1回、養生訓練: 1回

訓練日: 2016年11月14日

参加人員および部署: 病院長、副病院長、看護部、放射線部、手術部、

高度救命救急センター、事務部

本部+事務: 33名、救命救急センター: 22名、手術部: 15名

外部評価者: 福島県立医科大学病院から3名

想定: 福島第一原子力発電所で足場が崩れ作業員が墜落、外傷患者の
受け入れ要請があった。

成果: 今年度2回目であり、新たに手術部での実践的な訓練を実施し、
課題を抽出することができた



緊急被ばく医療体制



Ⅱ. 平成28年度 事業実績

2. 主な院内活動

④ BCP委員会

- 経緯: ①平成26年 東北大学病院のBCP作成
②平成27年 東北大学病院のBCPが策定
③平成28年5月 東北大学本部より各事業場(病院含む)にBCP策定の要請あり

経過: 11月 BCP委員会発足、第1回委員会開催、12月 第2回委員会開催

活動内容: BCP事務局としてのサポート

今後の行程:

項目	内容
策定体制の構築	BCP委員会の立ち上げ、病院全体で足並みを揃えて進めていく
重要業務調査	①通常業務のうち災害時にも中断できない業務は何か ②災害後に新たに発生する業務は何か ③他部署の進行との兼ね合いはどうか ④病院全体の重要業務は何か、いつまでに回復させるのか
経営資源調査・ 現況の把握	①各部署の重要業務を遂行するのに不可欠な(最低限の)資源は何か(人、物、情報、等) ②東日本大震災後に、各部署で改善された点(ハード、ソフト)は何か
業務継続のための 重要業務の優先順位付け	業務停止の影響の大きさ、タイムリミットに基づいて重要業務の優先順位付けを行う
リスク分析・評価・対策	①各部署の重要業務を遂行するのに不可欠な資源が使用できない状況とはどのような状況か ②上記に対して、どのような対策が取られているか。進捗はいかがか。備えはできているのか、いないのか。
被害想定 リスク対策表の策定	①実際の対策を立てるにあたり、東北大学病院が想定しなければならない被害(災害)にはどのようなものがあるか ②どの対策をいつまでに完了させるか
アクションプランの見直し・BCP文書 の取りまとめ	シミュレーションを行い、内容を検証し、BCP文書としてまとめる

Ⅱ. 平成28年度 事業実績

2. 主な院内活動

⑤ 医学部学生教育：PBL講義



経緯：医学教育推進センターより、医学部学生への災害教育の一貫としてPBLの授業をやってみたいかどうかと提案あり

授業内容：

日時	授業内容	授業内容
第1回目 2016/9/27	災害とは？ 近隣災害対応と広域災害対応	<ul style="list-style-type: none">• 災害についての講義• 近隣災害シミュレーション• 広域災害発生時の孤立地域の①生活支援②医療支援③住民避難について検討
第2回目 2016/10/4	広域災害対応における 各関連機関の対応	<ul style="list-style-type: none">• 前回の復習• A：災害拠点病院、B：消防・警察・自衛隊・NEXCO、C：県庁災害対策本部・医療対策本部における、孤立地域における①生活支援②医療支援③住民避難について検討
第3回目 2016/10/11	発表	<ul style="list-style-type: none">• 上記、A、B、Cの立場から発表• 1チームが表彰される

アンケート結果：勉強になった、面白かった、もっと勉強したいとの記載あり

Ⅲ 平成29年度予想される活動

【院内外の体制整備】

	院内の体制整備	院外の体制整備
災害対策	レベル3における体制整備 マニュアル改定 総合防災訓練 災害時情報収集体制の構築	宮城県における災害体制整備 DMAT連絡協議会活動 県内各種災害訓練
緊急被ばく医療	緊急被ばく医療体制整備・訓練 原子力災害拠点病院に向けた 体制整備	県や各拠点病院と連携した緊急被 ばく医療対応訓練
BCP	BCP策定 机上シミュレーション	各病院と連携したBCPの策定 (病院避難対応等)
教育	総合防災訓練・勉強会 PBL	各種研修会の実施

平成29年度依頼されると想定される 研修会・訓練・教育

開催予定月日	研修会・訓練・教育名	依頼元
6/12(津波の日)	宮城県机上シミュレーション	宮城県
7/29	大規模地震時医療対応訓練	内閣府⇒宮城県
9/1(防災の日)	宮城県総合防災訓練	宮城県
9～11月	宮城県災害医療従事者研修会	宮城県
11月?	宮城MCLS研修会	宮城県メディカルコントロール協議会
11月18-19日	宮城MCLS-CBRNE研修会	宮城県メディカルコントロール協議会
9～11月?	仙台空港実働訓練	仙台空港
11月?	UDME研修会	国立大学病院長会議
11月?	みちのくALERT準備訓練	自衛隊
2月?	宮城県医療救護活動従事者研修会	宮城県

全国の災害対応部署設置の動き

- ・東北大学病院 災害対応マネジメントセンター
 - ・東京大学病院 災害医療マネジメント部
 - ・千葉大学 平成29年度4月より設置予定
 - ・新潟大学医学部 災害医療教育センター
 - ・5大学連携(近畿大学・京都大学、大阪市立大学、関西医科大学、旭川医科大学)による共同事業「災害医療のメディカルディレクター養成」
 - ・岩手医科大学 災害時地域医療支援教育センター
- ※平成28年8月1日より、災害医学講座は救急・災害・総合医学講座の災害医学分野に再編
- ・愛知医科大学 災害医療研究センター
 - ・熊本大学 これから設置予定
 - ・長崎大学 これから設置予定

※大学病院として災害対応部門を設置しているのは、
現在2病院のみ!!!